

「節目の大切さ」

校長 香山 和昭

本校のホームページでも掲載させていただきましたが、校庭のあちこちで梅の花があでやかな姿を見せ始め、春の息吹を感じられるようになってきました。

新型コロナウイルスに関連した感染症予防対策として、政府の臨時休校の要請を受け、蓮田市立小・中学校では3月2日から26日まで臨時休校をすることになりました。臨時休校中の対応につきましては28日付の通知文でお知らせさせていただきましたが、今後は家庭訪問、メール配信、ホームページ等を通じて連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

義務教育を修了し、「それぞれの進路」に向かって巣立っていく3年生、学校の「顔」となり常に模範を示す最上級生となる2年生、そして、1年間の経験を得て新入生を迎え、「先輩」と呼ばれるようになる1年生にとって、学校が休校となることはとても残念ですが一人一人が、これからの日々の生活を充実させ、しっかり締めくくり、新たな気持ちで新年度を迎えてほしいと願っています。

ところで、皆さんは「竹」と言ったらどんなイメージを持つでしょうか。私は修学旅行の引率で訪れた京都嵐山の「竹林の小径」の景色を思い浮かべます。野宮神社から天龍寺の北側を通り、大河内山荘庭園まで約400mにわたって空を覆うほど高く伸びた竹の林が続いています。この日はあいにくの雨でしたが、雨に濡れた竹は、シャキッと、吸い込まれるような感覚を持ち、「しっかりと生きているぞ」「何があってもくじけるな」と言っているようでした。何か心が洗われるような、励ましや勇気をいただきました。

さて、竹は発芽するまでに4年以上かかり、その間に地下で1年間に7～8メートルもの根を張って地上の竹を支える準備をされると言われています。やがて芽を出した竹は、節目ごとに成長点を持つことで1日に80～100センチ成長し、2か月で20メートルにもなります。つまり、この節目があることで竹は強くまっすぐに大きく成長することができます。「目に見える成長」と「目に見えない支える力」、そして「節目の大切さ」、これらはまさに私たち人間の生き方にヒントを与えてくれると思います。

聞いたことには、竹はこの節目がなかったらその重さや何かの影響で倒れてしまうそうです。進級や、卒業する一年の終わりなど成長の節目において、それまでの振り返りを行い、新たな目標をもって前へ進むことが大切です。その積み重ねが竹のようなしなやかさと力強さの基となる節を築き、これから出会う様々な困難に打ち勝つ力や知恵や力の源になると思います。

御家庭におかれましては、節目のこの時期、学校は休校となりますが、この一年のお子様の成長や今後の課題等について、じっくり話し合う時間をぜひお取りいただき、新たな意欲を持たせていただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で先行の見えない不安を感じる日々が続いていますが、学校・家庭・地域が一丸となってこの未曾有の危機を乗り越えていければと考えております。引き続き保護者、地域の皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。